

# なんじゃもんじゃ地域版

## 上対馬病院基本理念

地域の健康な生活を守る使命の達成のため  
職員ひとりひとりが自覚と責任を持ち  
心のふれあいのある  
患者様の側に立った医療の実践を行なう

発行:上対馬病院地域連携室・広報部 ホームページ <http://www.kamibyō.jp>

## 最高の大腸内視鏡医、上対馬へ来たる!

上対馬病院 内科 森 源喜

当院へ赴任して1年が経過しました。多くの患者様を診察させていただき、特に内視鏡検査(胃カメラ、大腸カメラ)に関しては例年以上に多くの方に検査を受けていただいております。この場を借りてお礼を申し上げます。

さて、去る2月17日に当院にて大腸腫瘍に対する内視鏡治療が行われました。患者様は私の外来に通院されている方で、便検査で異常を認めため大腸カメラを行ったところ、大腸に腫瘍が発見されました。腫瘍は6cmと大きく、大腸癌の可能性があり切除が必要な状態でした。従来は外科手術が行われていましたが、最近では技術や器具の進歩に伴い、内視鏡を用いて腫瘍を切り取る内視鏡治療が広まってきています。外科手術では大腸の一部ごと腫瘍を切除しますが、内視鏡治療では腫瘍部分のみを切除し、また全身麻酔が不要で入院も数日間で済み、身体への負担が軽いという利点があります。しかし、6cmもの大きな腫瘍を内視鏡で切除するには従来のポリープ切除術では不可能で、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)と呼ばれる新しい技術が必要となります。この技術は非常に難しく、一部の専門施設で経験豊富な専門医により行われているのが現状です。

今回、この技術の第一人者である、東京の国立がん研究センター中央病院消化管内視鏡科長、齋藤豊先生に診療応援のため来島していただきました。同院はがん診療に関して日本トップの病院であり、私は平成22年度に在籍させていただきました。

齋藤先生は当時の私の上司で、国内のみならず海外でも内視鏡技術の普及に努められている、世界的にご高名な先生です。今回の大腸腫瘍が発見され、齋藤先生へご相談したところ先生は快く来島して下さいました。齋藤先生のご助力のお陰で無事に腫瘍は切除され、患者様は元気に退院されました。



当院のような離島の病院で、最先端の医療を展開できること非常に嬉しく思っております。これからも内視鏡診療のレベルアップに努め、上対馬地区の方々のお役に立ちたいと考えています。これまで内視鏡検査を受けたことがない方、胃癌・大腸癌が心配な方は是非お越し下さい。病院スタッフ一同、心よりお待ちしております。

## 泌尿器科受付のお知らせ —受付方法が変わります—

患者さまの増加により、5月からの堀医師の診療日に限り、眼科受付と同様ご来院順に受け付けいたしますので、来院されましたらご来院順に番号を付した待合椅子に着席の上受付をお待ち下さい。

※患者さまを公平に受け付けるためご協力よろしくお願いたします。

病院長